



議 員 活 動 録

(50) 上島町議会議員 平山和昭

議会議員は、住民に見える議論と活動を

先日の6月定例会議では、「一般会計補正予算案」と「特別会計事業予算案」2件が、予算委員会に審査付託されました。委員会では、十分とは言えないかもしれませんが、十分に議員間討議もされ、委員長採決の結果、全て可決すべきと決定されました。本会議では、その委員会の決定につき再審議され表決に付されます。表決に先立ち、議長から討論がとめられます。討論は議案に反対の討論から始まります。このたびは反対討論が無かったので筆者の賛成討論の出番はありませんでした。しかし、採決結果は賛成多数、つまり、反対者もいたのです。先に書いたように、討論をせねば議員が何を思っているかわかりません。反対討論にはわかりませんが、賛成討論はするべきだったかな、との反省があります。ともあれ、幻の賛成討論となった筆者の討論筋書きを一覧に供します。こんな流れで進めるということですが。

議会は言論の府と言われます。政策は様々な見地から論議され、必ずしもその論議全てが町民の皆さんに伝わっているとは限りません。また政策の幾つかは賛否が分かれます。それゆえに多数決原理にもとづき賛否が問われます。表決です。表決の際、賛・否共々その理由を述べなければ、議員が何を思っているか見えません。その賛否の意見表明を、議会用語では「討論」と称し、議員が意見を戦わすことは「討議」と称し、区別されています。

議案は言論の府と言われます。政策は様々な見地から論議され、必ずしもその論議全てが町民の皆さんに伝わっているとは限りません。また政策の幾つかは賛否が分かれます。それゆえに多数決原理にもとづき賛否が問われます。表決です。表決の際、賛・否共々その理由を述べなければ、議員が何を思っているか見えません。その賛否の意見表明を、議会用語では「討論」と称し、議員が意見を戦わすことは「討議」と称し、区別されています。

↑「インターン」でこの町に移住した農家になった若者の田圃で田植えがあった。自然農で自給自足を目指し、将来は田圃を使い子どもを対象にした自然学習の場も目指す。(場所・佐藤)



生名フェリーの高齢者優待については、合併当初、旧村時代に実施されていた高齢者運賃無料事業が廃止され、その後の運賃値上げに際し、生名船舶事業が大幅に黒字化した際には町民へ還元する、と当時の町長が言及していた経緯がある。

議席8番平山和昭の
 幻の賛成討論あらすじ
 「平成29年度上島町一般会計補正予算案」に賛成の立場で討論する。

町職員の能力向上を目的とする自主研究グループ助成に関しては、行政職員が住民の先頭にたつて、自主的な活動をする意識の確立に向かうきっかけになるものと期待をよせる。町の持続には、町職員も含む「住民の自主的な自治活動」こそ重要。そうしたなかで、この取り組みは職員優遇ではなく、職員が先頭に立って町を引っ張ってゆく姿へ変わってゆく挑戦と受け止める。

スピード感をもってやる改革の第一歩である。との答弁があった。私としては、危惧される諸問題がいかにか早く解決されるかを厳しくチェックしつつ、上島架橋完成までに、きれいな交通体系と、交通弱者の利便性の確立を目指すべきであり、その過程での制度変化も念頭に置きながら見守りたいと考える。

この高齢者優待制度は無料化でいいの、他の航路業者への影響、町民全体への公平性をどう考えるか、単独で実施するタイミングが今度いいのか、などが提案されている。予算は1グループ20万円を限度として、5グループ分100万円である。

わが町にあって役所は若い人の就職の場でもあり、職員の自己研鑽が何よりも求められている。そのことは、職員も十分理解されている筈。学び、学んだ証として、変わる。それこそが最も大切である。職員が常に住民の側に立ち、親切、懇切な対応をすることを、何にもまして町民は求めている。まだまだそのことが不十分との指摘を謙虚に受け止め、大いに制度を活用し、多方面の自主研究を重ね、後輩の規範にもなるべきであり、よってこの6月補正予算案に賛成する。

夫が何万円もするセーターを買い、私も負けじと上等のカシミアのマフラーを買い、両手に荷物が増えても財布の中身は減りません。「来月末のお引き

私達が木を切ったりBBQを楽しんでいる間にも、世の中は刻々と変わっている。新聞にはキャッシュレス時代、カードの時代到来と。これって、現金を持たない生活をするという事？ 疑問がふつふつとわく。まずお賽銭はいかがでしたでしょうか？ 毎度チャリンと入れて何をお願いするかといえば、「いつもありがとうございます。ま

やよみ亭映画研究会 しばらく休会します

尾道市立美術館特別展

絵本原画や忍者道具を楽しく展示。

7.22(土) 7.23(日) 7.24(月)

忍乱太郎

尾道市立美術館 休館：月曜日(祝日開館) 詳細：☎ 0848-23-2281

最近増えたアジアからの研修生はとても計算がうまい。725円の買い物に1025円を出し、300円のおつりを渡すと、「どう？」と言わんばかりに笑って帰る。キャッシュレスになると、こんなささやかなコミュニケーションもなくなりかねない。ねえ、私達社会においてい

落しとなりです。それまで明細書は大切にお持ちくださいませ。」と、おへそのあたりで両手を組んだ店員に渡された紙片が、ほとんど財布からドカドカと引き落とされ、お金を出さずに買い物をする恐ろしさを実感。消費させられているのかもしれない。間もなくカードは解約した。

キャッシュレス 浪費の神の かけし震

海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会 (参加自由)
(毎月25日13時～。生名開発センター2Fで開催)
7月例会はお休みです
(35)

濱田國太郎が日本海員組合の結成に尽力したといっても、決して平坦な道ではなかった。差別的に聞こえるかもしれませんが、組織のリーダーは、誰もがなれるものではないと思います。団体の規模性質に応じて、リーダーに求められる資質というのがあるはずで



「明治45年4月、日本海運界を揺るがした指導と、これを契機に日本郵船を退職した濱田は、日本船員同志会再建のために、横浜を中心として船を訪問するなどの活動をしてきた。しかし、賃金増額にむけて燃え上がった熱意が急速にさめてしまうと、ふたたびこの組織によって、自分たちの生活を改善していくことには少なかつた。そこで濱田は日本船員同志会の再建をあきらめ、千人前後の日本郵船機関部員による機関部同志会を足場に、神戸で活動している醍醐資祐とともに新たな組織の結成を模索して活動していた。」

先月号で紹介した、井出孝・著「刺青を背負った組合長」という本の書き出しです。本では、國太郎のリーダーとしての資質がどれほど大きかったかが語られます。

國太郎は昭和33年、死亡叙勲を受けました。(写真) 明治45年8月、皇室にゆかり深い奈良橿原神宮の宝物が盗まれます。それがロシアに売り捌かれるのを、國太郎が奪い返し未然に防いだという極秘事件のエピソードです。その功で大正天皇への拝謁の検討がされたものの沙汰止みに。國太郎の刺青が理由だったので、との後日談もあるそうです。(村上貢・著 海父濱田國太郎所収)

國太郎没後、勲4等瑞宝章が贈られました。瑞宝章の性格上、長年組合運動に携わった事に依るはずですが、「特旨により追賜」とは、あるいは橿原神宮宝物奪取の功績も一部あったやもしれません。

○ 一般質問は議員の義務
私が一番最初の定例会の前に先輩議員から教えていただいたことの一つです。どんなことでもいいから質問しなさいと言われて、教えたいたただいた通り、毎回質問していましたが、なかなかうまくいきませんが、毎回初めてで毎回勉強だと思っています。今になると、先輩議員の教えてくださったことの意味もだんだん自分の中に落ちていきます。一般質問するということは、それだけ関心をもつて話を聴く、生活をするとということ、さらに突っ込んで調べることを確認することにつながっていきます。どんなことでも勉強になるし、見方を変えれば様々な立場に立つて考えられるようになり、義務というのもうなずけま

六月定例議会終了

○ 農政の方針は
今回の一般質問では、どの地域でも大きな問題となってきたいる耕作放棄地等上島町農政の方針を質問しました。町長は様々な言葉で一次産業の大切さに言及しており、農業振興を公言しています。ですが、今まで一度も農業委員会で町長と話し合う場を持ったことはありません。農政の担当課である農林水産課ができたものの農林水産課ができてからの停滞ぶりが見え、この現実を打開するためには現実を知ってもらい明確な方針を打ち出してもらおうとが必要と考えました。ですが答弁では、一般的な放棄地対策等を述べるにとどまりました。現在農業委員会は、八名の委員がいます。法律の改正により人数が減り、より現実的な活動を求められることになっており、推進委員さんと二人三脚で農地利

実態把握をし、問題に向き合い、解決策を探る

用を進めていかねばなりません。ですが、実際には昨年度行われねばならなかった農地パトロールは、実施していません。他にも農業委員会の中では、議案として上島町の中で何か指針が必要なのではと意見が出る太陽光発電事業も町の方針はなく、今は書類さえ整備し許可せざるを得ません。他にも土地の名義変更に関すること、非農地判断のこと、Iターン、Uターンの新規就農者のことどれもよく話題になります。ですが、どれも手つかずになっていきます。そして上島町農政の指針となる「農業振興地域整備計画画書」は時間がないという説明があり、町長の方針は全く入っておらず、五年後の見直しまでに検討していくというのだから驚きです。

同様に今回の一般会計補正予算においても、農林水産業費である耕作放棄地対策に関連する作業員賃金や傷害保険料、重機借り上げ料等の費用が計上されています。これは上島町が農地利用円滑化団体になることによって、町自体が所有している農地でなく、優良農地と言われる土地を借り上げ、畑に戻して新規就農者や規模拡大したい農家の方に貸し出していくというものであり、住民の方が考える耕作放棄地対策とは若干イメージが違うのではないかと思います。もちろん、放棄地の数は減ります。ですが、町が手入れて畑を作ったとして、その先の新規就農者の確保や規模拡大農家の確保はどのような計画なのでしょうか。いくら聞いても、その先の答えは見えてきません。計画性や実行性に関して、もう少し予算を上げる前に時間をかけた十分な検討や広く意見を求めることが必要なのではないかと思ひ残念です。

【探しています！】

昭和62年、旧生名村時代に発行された「ふるさと」の思い出・生名島(赤い表紙のA4版)という本をお持ちの方で、お譲りくださる方いませんか。



この本は「生名村写真史編集委員会」の発行。一部村民の方々にも販売されました。「濱田國太郎を顕彰する会」では、今後の活動などに際し、資料として、また展示物での画像活用などに利用したいと考えており、買い取りもご相談させていただきたいと思っております。(平山まで)



私は、家を出る時「仕事に行ってください」と義母に伝えられるように、お金を出してでも来てほしい、という場所に転向しました。そうすることによって借金、楽器等の資本に回すことができる。福祉のほうに有償ボランティアでも、やはり人の役に立ちたい、という信念のもと働いている。ここでの立場は講師。十数年経つ。あと、街の中での活動は7人編成の音楽仲間を歌を届けている。子供たちや町の人たちに向けて発信。オフアがあれば出かけています。イベント会場やお祭り広場などです。手作り楽器も演奏したりして、好評です。

音楽のどこが人の役に立つのだろう。そういう思いで、デイサービス施設で音楽仲間と一緒に音楽ボランティアを始めたのは、二十年近く前。デイサービスに通う高齢者の方たちと一緒に歌を歌ったり、小楽器を使って簡単なリズムを打ったり、ミュージックベルを奏したり、手遊びをしたりなど、脳刺激をおこなった。ボランティアは、人のお役に立たせてもらっている、との思いでおこなっていた。他のボランティアをしている友人は、自分で申請して果知事賞をいただいた。立派です。自分を鼓舞することも必要です。

「私の音楽活動」
村上清美

